

第1学年 組 学級活動指導案			
日時	平成10年11月	場所	1年 組教室
題材	ボランティア活動の推進		
ねらい	ボランティア活動は、社会のために役立つだけでなく、自分のためにも有意義であることを認識させ、積極的に参加しようとする態度を育てる。		
指導観	<ul style="list-style-type: none"> 本学級は、男子11名、女子26名、計37名の構成である。将来は人のために役立つ仕事に就きたいと考えたり、手話や福祉関係に興味がある生徒も見られる。しかし、アルミ缶回収(ABC運動)に積極的に参加しているのは一部の生徒である。全体として、日常のボランティア活動は必ずしも十分であるとは言えない。 最近の生徒の特徴として、友人や周囲の人との交流の機会が希薄になると同時に自分のごく狭い範囲の友人関係の中でしか生活しようとする傾向が目立つ。その結果、自分や自分の仲間にとって特に興味や関心がないことには、「自分とは無関係」と考えがちである。ボランティア活動についても幼い頃から体験してきているが、積極的な活動への意欲や態度は不十分である。そこで、身近な所でできる他の人と関わる活動が自分を生かすことにもつながることに気付かせ、今後のボランティア活動への参加意欲の高揚を図りたいと考えた。 本時の前に2週間の個人またはグループで誰かのために何かをする実践を行った。本時の指導にあたっては、定着化している空き缶回収や地域清掃活動にこだわらないで、個人的に実践したことをふまえて、学級全体として具体的な今後の活動を計画して参加意欲をもって取り組ませたい。また、TTとして、司会者への支援と個人やグループへの支援に役割分担し、積極的な話し合い活動となるよう工夫した。 		
指導計画			

本時の指導					
議題	誰かのために何かをしよう(パート2)				
ねらい	(1) 2週間の実践をもとにした話し合いを通して、ボランティアへの意識を高める。 (2) 積極的に話し合い活動に参加することができる。				
学習過程	時間	学習活動	教師の支援と指導 評価		
			T1	T2	
<div style="text-align: center;"> </div>	5	1 開会の言葉 (役割分担の確認) 2 議題の発表			
	40	3 提案理由 4 原案提示	誰かのために何かをしよう(パート2)		
		5 討議	<ul style="list-style-type: none"> 事前にプログラム委員会で具体的な原案をいくつかに絞っておく。 各自の考えを意志表示させる。 自分と異なる意見を認める態度で考えているか。体験をもとにした発表となっているか。 討議を通して、ボランティアの精神を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 司会者を支援 多数意見を支援 少数意見を支援 理想派で実行不可能な意見についても、そのよさを支援 	
			<ul style="list-style-type: none"> 吟味のポイント 継続できる内容か 実行可能か 短時間にできるか 全員で活動できるか すぐに活動できる内容か 		
			移動タイムをとり、考えが変わった場合は、席を移動する。		
		5	6 採決 7 話し合い結果発表 8 感想発表 9 教師の講評 10 閉会の言葉		話し合いについて、感想を話す。
	研究の視点	生徒の活動に対するTTの援助は適切であったか。			